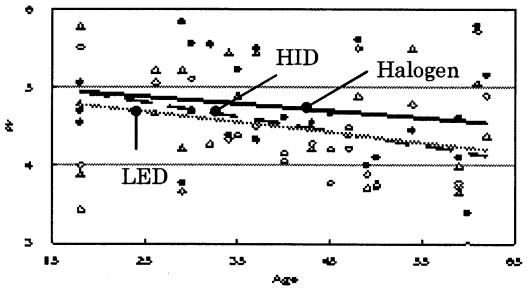
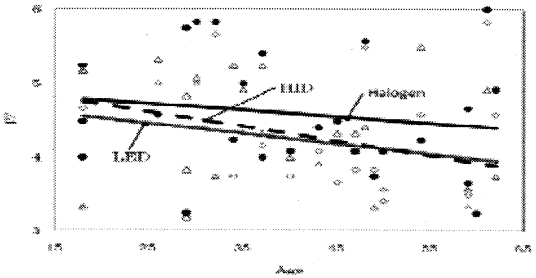
学術講演会前刷集正誤表

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.12 3.結果の4行目	・・・を削除した全26名の結果の散布図をFig.6に示す。	
正	・・・を削除した全26名の結果（グレア照度上限15*lx*, 下限0.2*lx*を除く）の散布図をFig.6に示す。	

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.12 Fig.6		
正		

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.12 3.結果の下3行目	・・・不快グレア量の平均値の差は統計的に有意(5%)ではないが，ハロゲンが比較的少なく，HID と LED はほぼ同一レベルといえる。	
正	・・・不快グレア量の平均値の差検定結果はハロゲンとLED間で5%有意となり，その他の間では有意とはならなかった。	

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.12
Table 7

Light Source	Average	S.D.	Inclination	R^2
Halogen	4.744	0.650	-0.009	0.038
HID	4.510	0.820	-0.018	0.098
LED	4.489	0.717	-0.013	0.068
Average	4.581	0.644		

正

Light Source	Average	S.D.	Inclination	R^2
Halogen	4.597	2.035	-0.008	0.022
HID	4.310	2.088	-0.019	0.088
LED	4.250	1.987	-0.014	0.063
Average	4.386	2.037		

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.12
Table 8

	Dispersion	*p*-Value	Verification
HID vs. LED	0.569	0.921	p>0.05
HID vs. Halogen	0.526	0.250	p>0.05
LED vs. Halogen	0.450	0.177	p>0.05

正

	Dispersion	*p*-Value	Verification
HID vs. LED	4.154	0.719	p>0.05
HID vs. Halogen	4.251	0.089	p>0.05
LED vs. Halogen	4.041	0.035	P<0.05

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.12 Table 9	Table 9 Relationships among *W* and Spectral 3-stimulus values(*X*, *Y*, *Z*), Color temperatures for each Light Sources	
正	Table 9 Relationships among *W* and 3-Stimulus values(*X*, *Y*, *Z*), Color temperatures for each Light Sources	

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.12
Table 10

Table 10 ・・Spectral 3-stimulus values(X,Y,Z) and ・・・

	Spectral Tri-stimulus values			Color temp.
	X	Y	Z	
R^2 values	0.8755	0.0165	0.7966	0.9988

正

Table 10 ・・3-stimulus values(X,Y,Z) and ・・・

	Tri-stimulus values			Color temp.
	X	Y	Z	
R^2 values	0.227	0.000	0.967	0.985

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.13
左 10 行目

実験結果より不快グレアは統計的には有意(5%)ではないが加齢の影響が見られる，また，ハロゲンとその他の光源間で不快グレアに差が見られる。・・・

正

実験結果より不快グレアはハロゲンと LED の間で 5%有意であった。また，加齢の影響が見られる，そこでこれらについて視覚特性の面から解析を実施した。

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.13
右 20 行目

Fig.8 よりグレア照度 1 lx 時における LED の W は 5.121 である。HID とハロゲンにおいてこれと同じ不快グレア指数 W を出すために必要な照度は HID で 1.1457 lx, ハロゲンでは 1.2896 lx であった。そこで式(2)による S 錐体を加味した測光量 Ls の値が上記の倍率となる K の値を求めた。その結果，ハロゲンでは K=1.260，HID では K=0.815 であった。

正

Fig.8 よりLEDの不快グレア平均値 W =4.25 におけるグレア照度は 2.3 lxである。この W と同一の不快グレアを発生させるHID，ハロゲンの各グレア照度はFig.8 よりHIDで 2.4 lx，ハロゲンで 2.9 lx である。ハロゲンを 1 とすればHIDはハロゲンの 1.04 倍，LEDはハロゲンの 1.27 倍明るいとことになる。そこで式 (3)の $V_K(\lambda)$ を式(2)の $V(\lambda)$ に代入し，測光量 Ls の値が上記の倍率となる K の値を求めた。その結果，ハロゲンでは K=1.12 であった。

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

誤
p.13
右下 2 行目

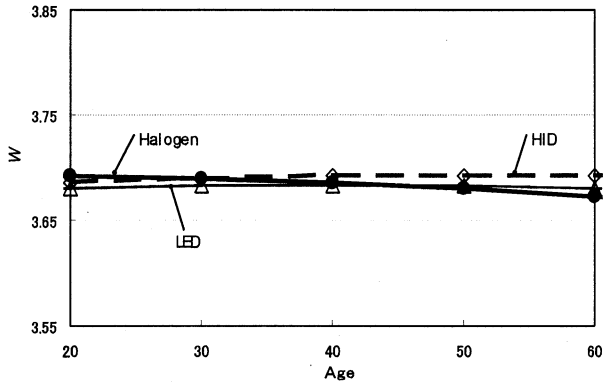
グレア照度 Es が 1 lx の時の各光源の年齢別グレア照度を式(2)で計算し，更に式(1)で W を計算した結果を Fig.10 に示す。

正

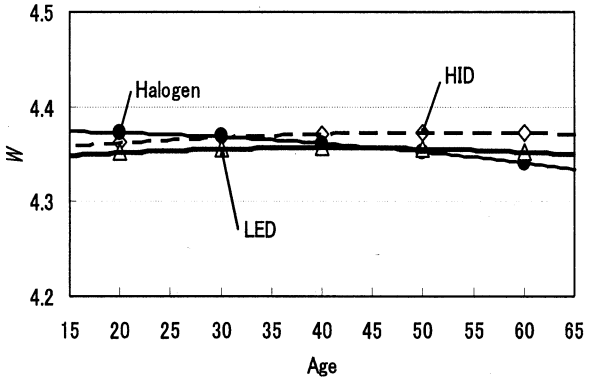
Table 7 のLEDの W 平均値 4.25 のグレア照度 E_B はFig.8 より 2.3 lx である。このグレア照度における各光源の年齢別グレア照度を式(2)で計算し，それらの照度をFig.8 の各光源の回帰式に代入して W を計算した結果をFig.10 に示す。

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10

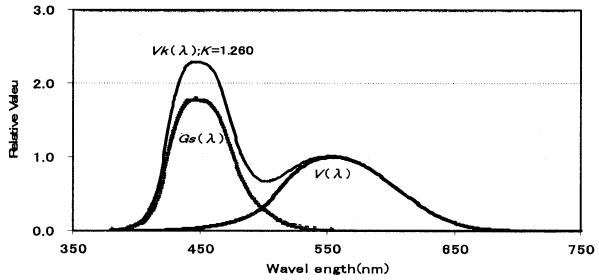
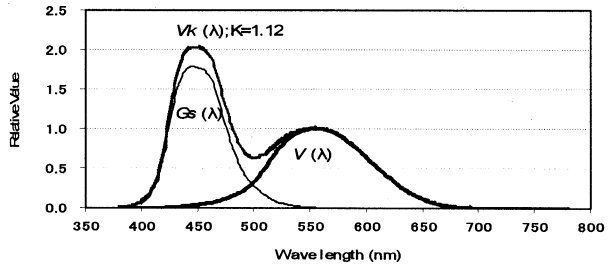
誤
p.13
Fig. 10



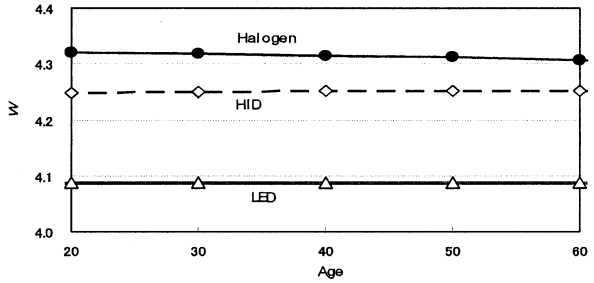
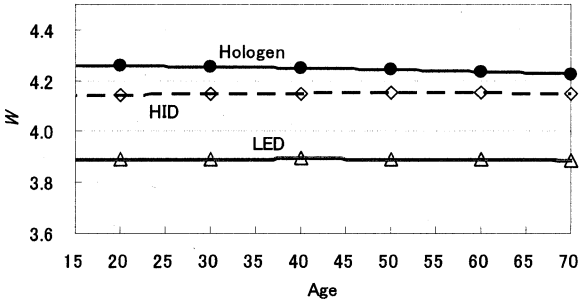
正



講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.13 右 26 行目	光源による不快グレアの差はハロゲンとそれ以外の光源において大きい。そこで K=1.260 を採用することとした。 Kを 1.260 に設定した時の$V_K(\lambda)$をFig.11 に示す。標準比視感度曲線$V(\lambda)$に対して$V_K(\lambda)$は短波長側の感度を高めた形状となっている。この$V_K(\lambda)$を用い，各年齢層，各光源に対するLsを求めた。	
正	Kを 1.12 に設定した時の$V_K(\lambda)$をFig.11 に示す。標準比視感度曲線$V(\lambda)$に対して$V_K(\lambda)$は短波長側の感度を高めた形状である。この$V_K(\lambda)$を用い，各年齢層，各光源に対するLsを求めた。	

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.14 Fig.11		
正		

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.13　下 1 行目	加齢の影響は Fig.6 の実験結果と比較して少ないが，光源間の W 値の差は 0.23(LED とハロゲンの差)と Table 7 の実験結果の 0.25 とほぼ近い結果が得られた。	
正	加齢の影響は Fig.6 の実験結果と比較して少ないが，光源間の W 値の差は 0.36(LED とハロゲンの差)と Table 7 の実験結果の 0.35 とほぼ近い結果が得られた。	

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.14 Fig.12		
正		

講演No.22	文献（受付）No.20105086	学術講演会前刷集No.5-10
誤 p.14 4. まとめ右 20 行目	その結果，被験者の不快グレア評価のばらつきは非常に大きい。また，加齢と共に不快グレアの増加(W 値の低下)が何れの光源においても見受けられる。光源種別による不快グレア量の平均値の差は統計的に有意(5%)ではないが，ハロゲンが比較的少なく，HID と LED はほぼ同一レベルであった。	
正	その結果，被験者の不快グレア評価のばらつきは大きいが，加齢と共に不快グレアの増加が何れの光源においても見受けられた。光源種別による不快グレア平均値の差はハロゲンと LED 間で 5%有意であった。	

学術講演会前刷集正誤表

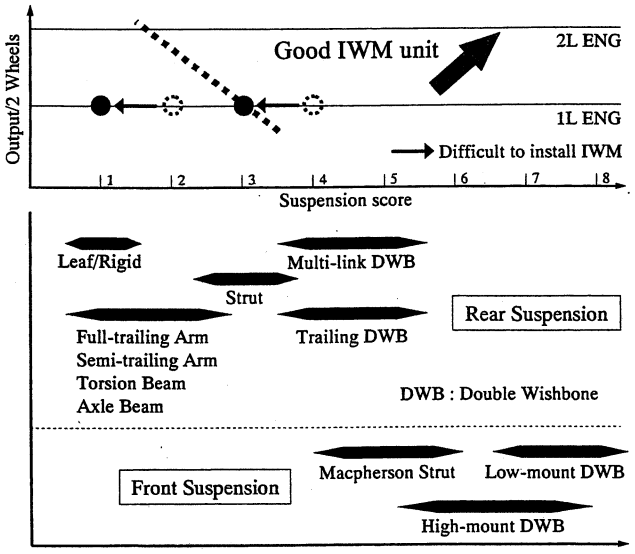
講演No.113	文献（受付）No.20105145	学術講演会前刷集No.22
誤	p.11　l.9　0.0001g/s、l.14　15%、Fig.9、Fig.10 の値に誤り p.12　Table.6　over average、23.0%、7.1%、2.1%	
正	p.11　l.9　0.0001g/m、l.14　11% p.12　Table.6　under average、71.3%、7.5%、0.19%	

学術講演会前刷集正誤表

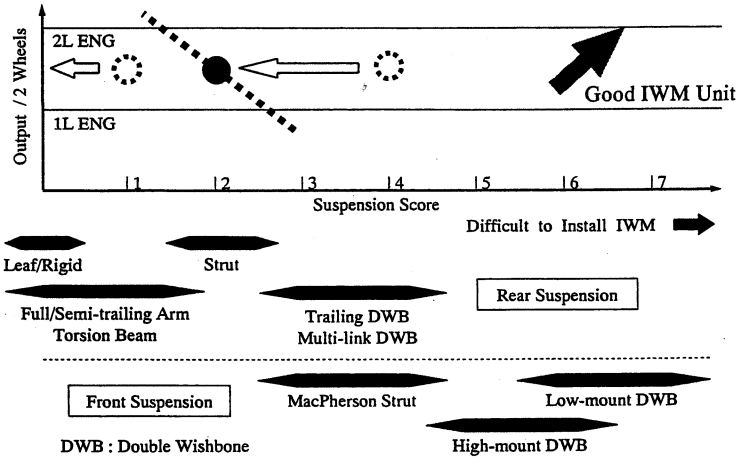
文献No.20105173　　学術講演会前刷集No.28-10　　講演No.138

【修正点】　Fig.2 Installing difficulty of IWM depending on suspension type を以下のように修正いたします.

（誤）



（正）



学術講演会前刷集正誤表

文献No. 158-20105143　　学術講演会前刷集No. 32-10　　講演No. 158

（誤）

P4 左段 23 行目

板厚 4mm の L 字試験片において，試験にて破断が発生する変位 8.5mm 時のボイド体積率の最大値は 0.92 である．本値を破断判定しきい値とする場合，板厚 2mm の L 字試験片のボイド体積率の最大値 0.39 は破断判定しきい値以下であるため破断は発生しないと定義でき，試験結果と一致する(図 14).

（正）

P4 左段 23 行目

板厚 4mm の L 字試験片において，試験にて破断が発生する変位 8.5mm 時のボイド体積率の最大値は 0.092 である．本値を破断判定しきい値とする場合，板厚 2mm の L 字試験片のボイド体積率の最大値 0.039 は破断判定しきい値以下であるため破断は発生しないと定義でき，試験結果と一致する(図 14).

学術講演会前刷集正誤表

文献No.　学術講演会前刷集No.58-10　　講演No.20105266

（誤）

Table 1 Engine specification

Item	Specifications
Engine Type	DI single cyl. 4 valve
Displacement L	2.004
Bore × Stroke mm	135×140
Max Engine Speed rpm	2000
Injection system	Common Rail System (Max Pinj=220MPa)
Nozzle mm	Minisac 0.177×8-150°
Piston Type	Steel (Monotherm)
Comb.Chamber	Troidal（ϕ 85）
Compression Ratio	14.0 ～20.0
Swirl Ratio	0.87, 1.4
Air Charging System	External super charger

誤

（正）

Table 1 Engine specification

Item	Specifications
Engine Type	DI single cyl. 4 valve
Displacement L	2.004
Bore × Stroke mm	135×140
Max Engine Speed rpm	2000
Injection system	Common Rail System (Max Pinj=220MPa)
Nozzle mm	Minisac 0.177×8-150°
Piston Type	Steel (Monotherm)
Comb.Chamber	Troidal（ϕ 85）
Compression Ratio	14.0 ～ 22.0
Swirl Ratio	0.87, 1.4
Air Charging System	External super charger

（誤）

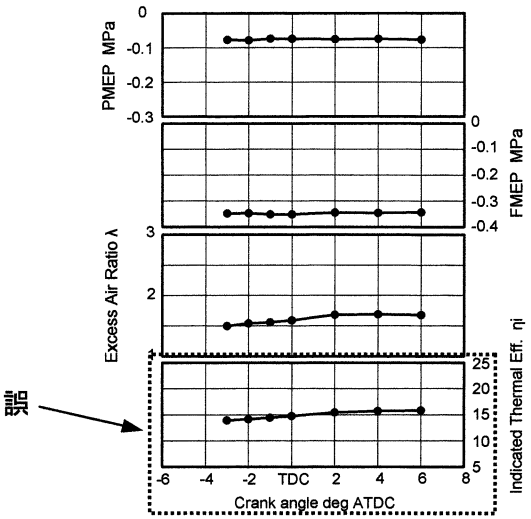


Fig. 12 λ and η_i with ignition timing

（正）

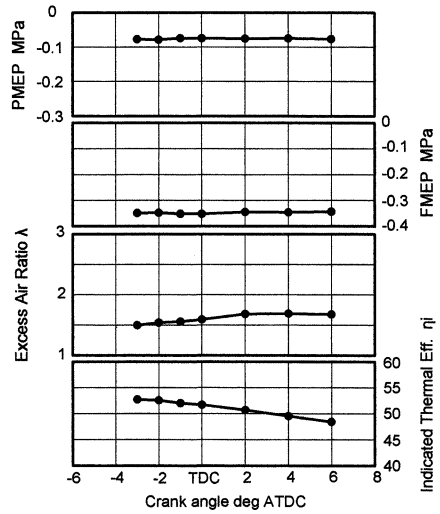


Fig. 12 λ and η_i with ignition timing

学術講演会前刷集正誤表

講演番号：323　文献番号(受付)：20105042　　学術講演会前刷集番号：66-10

p.15（英文 abstract　3 行目）

誤：　120

正：　180

p.18　(左側　下から５行目　見出し)

誤：4.2. 非運転時の認知・反応時間測定結果

正：4.2. 運転時の認知・反応時間測定結果

p.19　(左側　上から２行目　見出し)

誤：２）画面中央、左方、右方別認知・反応時間測定

正：4.3　非運転時の認知・反応時間

p.19　(右側)　上から　13 行目　見出し　と　本文４行部分)

削除：「4.3. 実車運転時の認知反応時間測定結果」の見出しと、本文４行部分

講演テーマ：“408－20105029 熱機関を動力源とする車両のエコエネルギ緩衝駆動”

「正　誤　表」

前刷、第２頁における下記訂正前文章（誤）の部分を下記訂正後文章（正）に、お詫びして、ご訂正下さるようお願い申し上げます。

「誤」

3.1.　図２の説明

横軸Ｐ１は入力軸に要求される動力を示し、縦軸Ｎ１ｃａおよびＮ１ｍａは図２を使用した場合における入力軸の下限回転速度Ｎ１ｃと上限回転速度Ｎ１ｍを示し、Ｎ１ｍａとＮ１ｃａとの上下間が②の状態におけるエンジンの作動範囲であって上記Ｐｅ＞Ｐ１を満たしている．更に②の状態において、エンジン出力軸と入力軸は直結した状態にあるから、図２において、Ｐ１ｏ≦Ｐ１≦Ｐ１ｍにおける横軸Ｐ１はエンジンの出力動力Ｐｅにも相当し、縦軸Ｎ１ｃａのＮｅｌ≦Ｎ１ｃａ≦Ｎｅｍの範囲はエンジンの回転速度Ｎｅにも相当し、その相当している範囲は、第１報[1]における図３のｄ～ｅ（経済燃費特性線Ｅ）におけるエンジンの出力動力Ｐｅ（＝横軸Ｐ１）と回転速度Ｎｅ（＝縦軸Ｎ１ｃａ）との関係になっている．

又、特性Ｎ１ｃａにおける横軸Ｐ１の０≦Ｐ１＜Ｐ１ｏの範囲は、第１報[1]の図３における経済燃費特性線Ｅ上のｄ点の作動に相当している．

「正」

3.1.　図２の説明

横軸Ｐ１は入力軸に要求される動力を示し、縦軸は入力軸の回転速度Ｎ１（Ｎ１ｃａ，Ｎ１ｍａ）を示し、特性Ｎ１ｃａおよびＮ１ｍａは図２を使用した場合における入力軸の下限回転速度Ｎ１ｃと上限回転速度Ｎ１ｍである．ここで、②の状態において、エンジン出力軸と入力軸は直結した状態にあるから、縦軸はエンジンの回転速度Ｎｅにも相当し、そのＮｅｌからＮｅｍの範囲は、第１報[1]における図３のｄ～ｅの経済燃費特性線Ｅにおけるエンジンの各出力動力Ｐｅに対応した回転速度Ｎｅの関係になっている．従って、縦軸は該経済燃費特性線Ｅ上のエンジン出力動力Ｐｅにも相当している．

更に、特性Ｎ１ｃａは、Ｐ１ｏ≦Ｐ１≦Ｐ１ｍにおける範囲がＰ１＝Ｐｅの特性を示し、０≦Ｐ１＜Ｐ１ｏの範囲が、該経済燃費特性線Ｅ上のｄ点の作動に相当してＰｅ＞Ｐ１の特性を示している．すなわち、図２における特性Ｎ１ｃａの上側がＰｅ＞Ｐ１の条件を満たした範囲である．

学術講演会前刷集正誤表

文献No. 20105295　　学術講演会前刷集No. 90-10　　講演No. 433

（誤）図 5

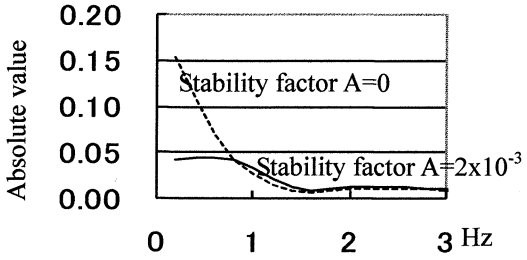


Fig.5 Response of frequency

（誤）図 7

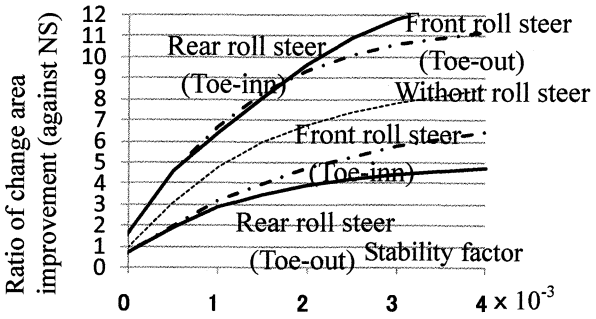


Fig 7 Effect of roll steer

(lateral acceleration　response with steering input)

（誤）図 9

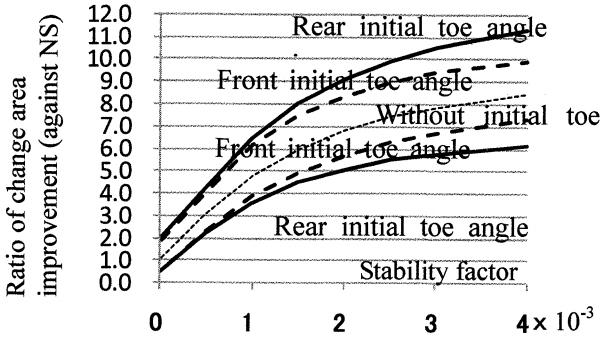


Fig 9 Effect of initial toe angle

(lateral acceleration　response with steering input)

（正）図 5

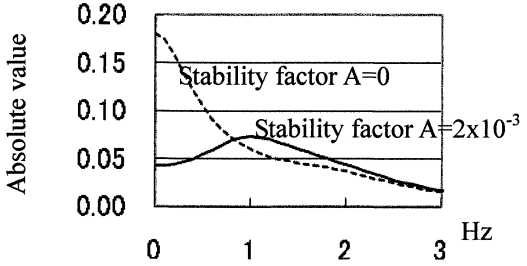


Fig.5 Response of frequency

（正）図 7

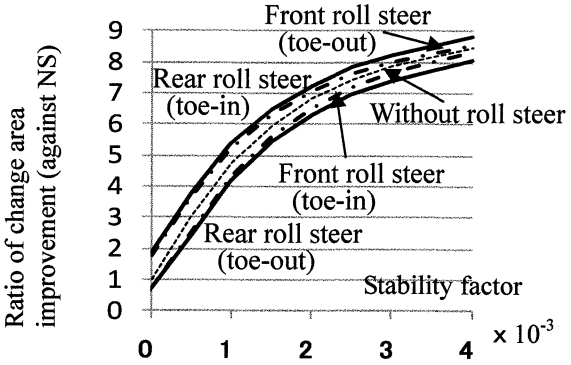


Fig 7 Effect of roll steer

(lateral acceleration　response with steering input)

（正）図 9

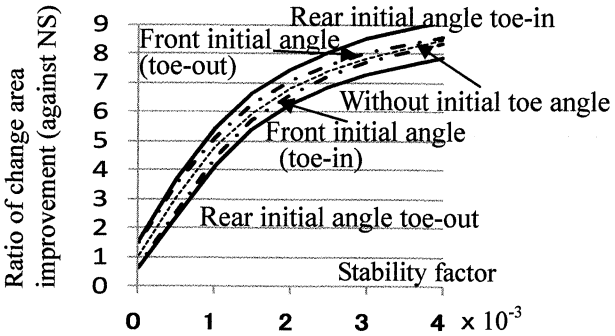


Fig 9 Effect of initial toe angle

(lateral acceleration　response with steering input)